

「第22回 奨励賞・功労賞」記念特別号

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.121 Special Issue, 2017.9

I. 第22回日本女性科学者の会賞贈呈式ならびに SJWS 設立 60周年に向けて

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 功刀 由紀子

第22回(2017年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式、ならびに奨励賞受賞記念講演会が去る5月28日(日)の午後、学士会館にて挙行されました。奨励賞は、独創的で優れた研究成果を挙げているとの評価が高い島田緑氏と樋田京子氏の2名に贈呈することができました。今後、女性研究者のリーダーとして更なる活躍が期待される人材です。

また、本年度の功労賞には、本会が法人化された際、定款の設定を始めとして多大なご指導を頂きました丸岡賢氏に贈呈することができました。丸岡賢氏には、現在本会の顧問として引き続きご指導を頂いております。奨励賞および功労賞を受賞された3名の方々のプロフィールや研究内容につきましては、本号に詳細が記載されておりますのでご一読をお願い致します。

今回の贈呈式には御来賓として、内閣府男女共同参画局局長の武川恵子氏と国立女性教育会館理事長の内海房子氏のご臨席を賜りました。また、武川局長よりご祝辞を賜りましたこと、この紙面をお借り致しまして深く感謝の意を表します。

また、本号には7月15日(土)に開催されました例会の報告、並びに7月14日、15日に開催されましたINWES-APNN/GWSTの報告も掲載されております。こちらにつきましても、ご一読の程お願い致します。

さて、来年度2018年は、本会が発足をした1958年から数えて60年目に当たります。10年前の50周年目には、本会の50年間にわたる活動記録がまとめられました。今回は、そ

の後10年間の活動記録を追加することになるでしょう。また、60周年という節目に当たり、本会の過去を振り返り、現在の活動を精査・評価し、未来に向かって本会の在り方や活動内容の更なる展開について、会員の皆様と共に考えて行きたいと願っております。このような60周年記念事業の企画・準備を本年度から始めるべく、ワーキンググループの立ち上げが6月開催の理事会にて承認されました(本会HPの会員専用ページから理事会議事録を参照)。また、記念事業実施の財政的基盤確保に向けて、60周年記念協賛募金をワーキンググループで企画しております。会員の皆様方には、改めましてご依頼を致しますが、ご協力の程お願い申し上げます。

60年前、本会は次のような設立趣旨のもと、産声をあげました。「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識交流を図り、女性科学者の地位向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」。60年間の活動継続の中で、常に設立趣旨の観点から女性科学者を取り巻く社会情勢や研究活動環境を注視し、順次新規事業を立ち上げ継続しております。本号で取り上げている、主として女性科学者を受賞対象とした奨励賞の設立、同時に、女性科学者の研究活動環境の改善に取り組んだ方々や、長年に渡り顕著な業績が評価されている女性科学者に贈呈する功労賞の設立はその良い例として挙げられます。

また、去る7月15日の例会開催に合わせて、SJWSロールモデル集の作成にとりかかりました。まだ少数の会員のみですが、本会HPに掲載されておりますのでぜひ閲覧頂き、合わせて皆様のロールモデル掲載にご協力をお願い致します。

目次

- I. 第22回日本女性科学者の会賞贈呈式ならびに SJWS設立60周年に向けて 1
- II. 第22回日本女性科学者の会 奨励賞・功労賞 受賞者のプロフィール、賞選考経緯 2
- III. 奨励賞受賞者の講演要旨 4
- IV. 受賞者の挨拶 6
- V. 第23回「日本女性科学者の会奨励賞」募集要項 7
- VI. INWES- APNN/GWSTの報告 8
- VII. 2017年度SJWS例会報告 9
- VIII. 定時総会報告、2016年度会務報告、2017年度事業計画 10
- IX. 第22回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプション風景 12

功労賞受賞者
丸岡氏

功刀会長

奨励賞受賞者
島田氏奨励賞受賞者
樋田氏

第22回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



島田 緑氏
(SHIMADA MIDORI)

41歳

名古屋市立大学
医学研究科 講師(申請時)
博士(理学)大阪大学

研究課題：「染色体安定性維持機構と発がん」

賞贈呈理由：真核生物は様々なゲノムストレスに対して複数の防御機構を持っており、これらの協調した作用がゲノムの安定性維持に必要である。受賞者はこれらの分子機構を、酵母を用いて解明し、高等動物に応用するというアプローチで、減数分裂組換え時に生じるDNA二本鎖切断の修復状態やRNA代謝異常をモニターするチェックポイントが存在することを世界で初めて提唱し、それらの分子機構を明らかにした。また癌抑制因子Chk1がヒストン修飾を介して転写制御を担うという新たな概念を発表し、ゲノム安定性維持機構における重要な成果をあげた。さらに発がん防御機構のひとつである細胞老化の分子機構およびヒストンバリエントH2AXを介した染色体分配の制御機構の解明に貢献した。これらの成果は癌や遺伝子疾患に対する予防法、治療法の改善に応用できると期待される。

略 歴：1998年大阪市立大学理学部生物学科卒業。2000年大阪市立大学大学院理学研究科前期博士課程修了。2003年大阪大学大学院理学研究科後期博士課程修了・学位取得。2003年名古屋市立大学大学院医学研究科にて、学術振興会特別研究員。2006年名古屋市立大学医学研究科 研究員。2008年名古屋市立大学医学研究科 特任助教。2009年名古屋市立大学医学研究科 講師。2017年4月より山口大学共同獣医学部獣医学科生体機能学講座 教授に就任。

連絡先：〒753-8515 山口市吉田1677-1
山口大学共同獣医学部獣医学科生体機能学講座
TEL：083-933-5909 FAX：083-933-5909
E-mail：shimada@yamaguchi-u.ac.jp

第22回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



樋田 京子氏
(HIDA KYOKO)

49歳

北海道大学
遺伝子病制御研究所
特任准教授
博士(歯学)北海道大学

研究課題：「新しいがん治療法の開発を目指したがん微小環境における血管の異常性解明」

賞贈呈理由：受賞者は、腫瘍組織内の血管が形態のみならず内皮細胞のレベルでも正常血管と異なることを明らかにし、がん間質の概念を変える独創的な研究成果を収めた。腫瘍血管内皮が、がん微小環境の影響をうけダイナミックに変化するなど腫瘍血管内皮の多様性を発見し、更に、腫瘍血管内皮細胞が分泌するbiglycanによりがん細胞の転移が誘導されるという、転移の新しいメカニズムを報告し、がん生物学に新しい洞察を与えるというオリジナリティの高い研究成果をあげた。また、これらの成果を抗がん剤や診断薬開発につなげる取り組みも評価された。

略 歴：1992年北海道大学歯学部卒業、口腔外科にて臨床に従事。1998年同大学院短縮修了(歯学博士)後、日本学術振興会研究員(PD)。2001年 夫と1歳の双子とともに渡米しハーバード大学小児病院Surgical Research(現在Vascular Biology Program)にて研究員。2002年より日本学術振興会海外特別研究員。2004年同大学助手。2005年に帰国。北海道大学院大学歯学研究科口腔病理病態学教室助手。2009年特任准教授として歯学研究科に血管生物学教室を開設。2014年より現職。

連絡先：〒060-0815 札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学遺伝子病制御研究所フロンティア研究ユニット
血管生物学研究室
TEL：011-706-4315
E-mail：khida@igm.hokudai.ac.jp

第22回日本女性科学者の会
功労賞受賞



丸岡 賢氏
(MARUOKA KEN)

66歳

公益社団法人科学技術国際交流センター管理部長、
一般社団法人日本女性科学者の会顧問

賞贈呈理由: 丸岡賢氏は、国家公務員として永年事務畑を歩んでこられ、その間、一貫して科学技術庁関係のお仕事に従事された。また、日本の科学技術の発展に寄与され、信頼も厚く、人望と手腕を評価され、その功績を確実なものとしてこられた。ご定年後も関連官庁等において多くの役職を歴任され、現在もなお精力的に活躍されておられる。定年後に行政書士の資格を取得され、本会がそれまでの任意の団体から、2014年4月1日に一般社団法人への移行にあたり、定款の作成・認証申請に始まり、法人登記、法人運営に関わる規則の作成・整備等、全面的なご支援をボランティアとしてご提供頂いた。法人への移行後も、本会の法務及び財務に関わる部分は言うまでもなく、本会の発展のために、多大なご支援を頂いている。

略 歴: 1970年神奈川県川崎市立橋高等学校卒業後、2016年まで、科学技術庁・文部科学省・内閣府科学技術政策担当部局にて勤務され、金属材料技術研究所、海洋科学技術センター、国際科学技術博覧会協会、動力炉・核燃料開発事業団、防災科学技術研究所、(財)核物質管理センターなど、科学技術に関わる多方面の分野において総務・財務・広報の面から支えてこられた。2012年に行政書士資格取得され、2014年より本会顧問に就任。本会の運営にあたり、多くの助言を頂いている。

連絡先: 〒341-0038 埼玉県三郷市中央1丁目2番地1 ザ・ライオンズ三郷中央1605号

第22回(2017年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞 選考経緯

第22回奨励賞は、2016年5月に本学会のHPに募集要項を掲載するとともに、本会広報誌(SJWS News)、男女共同参画・女性研究者支援関連センターや関連施設がある80あまりの大学や研究機関へのメール案内、女性研究者メーリングリストへの配信、物理、化学、生物、医学関連の主だった学会のHPへの掲載等を介して、本会賞担当理事で手分けして、広く周知し、2016年11月1日～20日の20日間を応募期間として募集したところ、24名の応募がありました。応募者の中から、特に優れた応募者を12月の理事会にて厳選し、化学分野3名、生物・生化学/医学・薬学分野4名、物理2名につき、各専門分野の外部評価委員に評価をお願いし、その評価結果を参考として、3月の理事会にて奨励賞の趣旨にふさわしい候補者の最終選考を行いました。多くの時間と多岐に渡る議論を尽くし、慎重に審議した結果、生物・生化学/医学・薬学分野から島田 緑氏、と樋田 京子氏の2氏に奨励賞を贈呈することが決まりました。

第22回功労賞は、2017年11月1日から20日までを応募期間として募集いたしました。丸岡氏は、本会がそれまでの任意の団体から、2014年4月1日に一般社団法人への移行にあたり、定款の作成・認証申請に始まり、法人登記、法人運営に関わる規則の作成・整備等、全面的なご支援をボランティアとしてご提供頂いただけでなく、一般社団法人設立後も顧問として、理事会運営、規則の改定、会計処理に至るまで、多大なご貢献を頂いており、余人を以って代えがたい存在になっております。理事5名の推薦をうけて、3月の理事会にて協議した結果、満場一致で丸岡氏に功労賞を贈呈することが決まりました。(文責 賞担当理事 近藤科江)

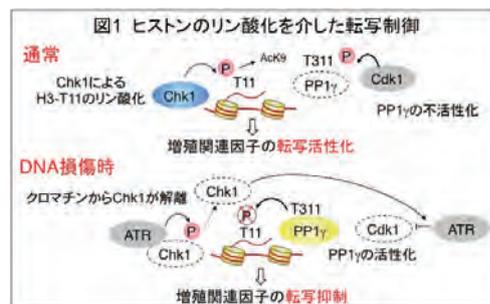
染色体安定性維持機構と発がん

山口大学共同獣医学部 生化学教室 島田 緑

超高齢化社会が到来した日本にとって、がんを含む加齢性疾患を克服し、健康長寿を実現することが大きな課題です。私は一貫して、破綻するとがんや老化につながる染色体安定性維持機構の解明に取り組んできました

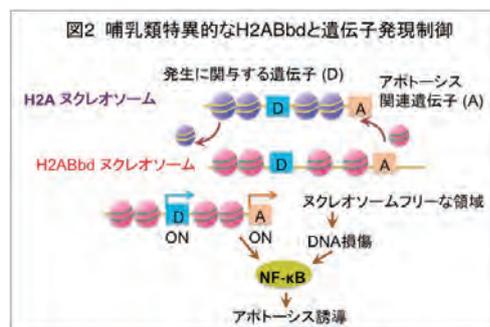
1. ヒストンのリン酸化を介した転写制御機構を提唱し、ゲノム安定性維持機能の解明に貢献した

多細胞真核生物は様々なゲノムストレスに対して複数の防御機構を持っており、これらの作用により染色体DNAを安定に維持しながら自己複製を行っている。これらの防御機構の破綻は発がんに大きく寄与している。特にDNA損傷に対しては、チェックポイント、アポトーシス誘導、様々な遺伝子発現制御を介した早期細胞老化がそれぞれ協調しながら作動し、異常細胞の蓄積を防いでいる。これらのDNA損傷応答は部分的に転写抑制によってもたらされているが、この機構はほとんど分かっていない。本研究ではDNA損傷後のヒストン修飾の変化に着目し、さまざまな修飾の中でヒストンH3-Threonine 11(H3-T11)のリン酸化が急速に減少することを見出した(図1)。通常、クロマチン上にあるChk1(Checkpoint kinase 1)はH3-T11をリン酸化し、このリン酸化はヒストンアセチル化酵素GCN5のリクルートを促進し、ヒストンH3K9のアセチル化を増加する。DNA損傷後、クロマチンからChk1が解離しH3-T11のリン酸化が減少するため、多くの細胞周期制御因子の転写が抑制されることを示した(Shimada et al, Cell, 2008)。一般的に、リン酸化はキナーゼとフォスファターゼの活性のバランスにより制御されている。DNA損傷後のH3-T11のリン酸化の減少にはDNA損傷後クロマチンからChk1が解離するだけでなく、脱リン酸化酵素PP1 γ が関与していることを見出した。さらにDNA損傷に応じてCdk1の活性が抑制されると、Cdk1によるリン酸化部位であるPP1 γ のThreonine 311(PP1 γ -T311)が脱リン酸化されPP1 γ が活性化されることを明らかにした(Shimada et al, EMBO Rep, 2010)。



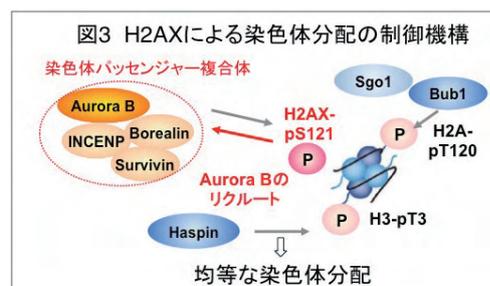
2. 哺乳類特異的なヒストンバリエントH2ABbdのin vivoにおける機能を初めて示し、エピジェネティクスによる高次生命現象の理解に貢献した

クロマチン構造は遺伝子発現調節、DNA複製、染色体分配、DNA修復など多彩な現象に必須の働きを持つ。このようなクロマチン構造の機能的制御には、ヒストンの翻訳後修飾、ATP依存的なクロマチンリモデリング、ヒストンバリエントによる機能分担が重要である。しかしながらこれらの中でヒストンバリエント、特にH2AバリエントH2ABbdのin vivoにおける機能については機能解析が困難とされていたことが理由で、ほとんど分かっていない。本研究ではH2ABbdの過剰発現により、NF- κ Bが活性化されアポトーシスが誘導されることを見出した(図2)。さらにH2ABbdの標的因子の解析から、H2ABbdが分化、アポトーシス誘導に関わることを見出し、H2ABbdが関わる高次生命現象の理解に貢献した(Goshima et al, JBC, 2014)。



3. ヒストンバリエントH2AXを介したAuroraBの時空間的な活性化制御を示し、染色体を分配する制御機構の解明に貢献した

細胞分裂期における娘細胞への均等な染色体分配は、安定的な染色体維持に必須であり、AuroraBキナーゼが染色体分配の制御に中心的な役割を果たしている。細胞周期の進行に伴いAuroraBの活性および局在が厳密に制御されることが重要であるが、どのようにAurora Bの活性化がセントロメア局所的かつ急激に起こるのかについて十分に理解されていない。私はDNA損傷応答に重要なヒストンH2AバリエントのH2AXが、DNA損傷応答の機能とは無関係に染色体分配に必要であることを見出した(図3)。さらに新規リン酸化Ser121は活性化型AuroraBのセントロメアへの効率よいリクルートに関わり、AuroraBの時空間的な活性化に重要であることを示した(Shimada et al, Nat Commun, 2016, Shimada and Nakanishi, Cell Cycle, 2016.)。



新しいがん治療法の開発を目指したがん微小環境における血管の異常性解明

北海道大学遺伝子病制御研究所 血管生物学研究室 樋田 京子

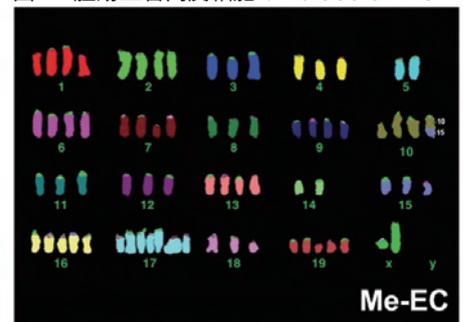
血管新生阻害療法について

近年開発された抗がん剤の多くは分子標的薬であり、大きな成果を上げている。しかし、各々の薬剤の対象となる患者が少なく、がん細胞による耐性獲得も問題である。一方、がん組織に酸素や栄養を供給し、がんの血行性転移にも重要な役割を担う血管を標的とした血管新生阻害療法は全てのがんに共通する血管新生を標的としているため、多くの悪性腫瘍で既存の抗がん剤と併用した際の上乗せ効果が認められている。しかし、血管新生阻害剤が認可されて10年以上経過した現在、本治療法にもいくつか問題があることが明らかになってきた。それらは、①副作用：正常血管に対する傷害からおこる副作用、②がんの悪性化：過度な血管新生阻害による低酸素、③薬剤耐性、④治療の奏功を判定するマーカーがない、といった問題である。これらは本治療法が開発された当初は想定されてはいなかった。血管新生阻害療法の標的は腫瘍血管の内側一層を構成する腫瘍血管内皮細胞であるが、近年までその性質は正常血管内皮細胞と同じで、遺伝学的にも安定で正常なものであると考えられてきた。上述の問題点は腫瘍微小環境においては血管内皮細胞がこれまで考えられてきたよりも複雑で多様な性質をもっていることも関連している。

腫瘍血管内皮細胞の分離とその異常性の発見・新しいがん治療戦略の構築に向けた取り組み

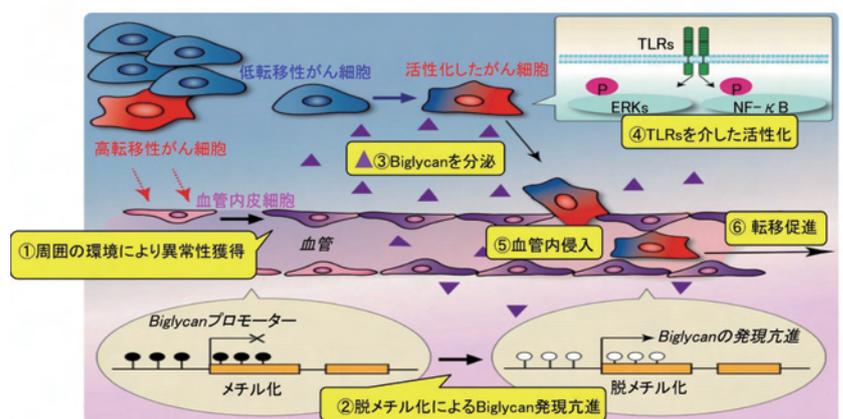
我々は腫瘍血管が形態的に正常と異なることから内皮細胞における異常もあるのではないかと考え、腫瘍血管内皮細胞の分離・培養を行い、これまで正常血管内皮細胞との様々な違いを明らかにしてきた。例えば、腫瘍血管内皮細胞が特異的な遺伝子発現パターンを示すこと、細胞増殖や遊走能が高いこと、さらには染色体異常を持つこと(図1)、ABCトランスポーターの発現亢進を伴う抗癌剤paclitaxelへの抵抗性があることなどを見出した。なお、これら異常性はがん細胞が分泌する液性因子により正常血管内皮にも誘発されたことから、がん細胞因子による血管内皮細胞の異常性獲得のメカニズムの存在が確認された。さらに、がん微小環境(がんの悪性度など)の違いにより腫瘍血管内皮の性質の差(遺伝子発現、薬剤感受性など)が異なることを発見し、腫瘍血管にも多様性があることも報告した。

図1：腫瘍血管内皮細胞のMulticolor FISH



また、腫瘍血管内皮細胞が分泌するbiglycanによりがん細胞の血管内浸潤が促進され、結果的に肺転移が誘導されるという、これまでとは全く異なるがんの転移の新しいメカニズムを報告した(図2)。その後、ヒトにおいてもbiglycanが転移と関連があるという結果を得ており、現在biglycanを標的とした癌転移診断、治療薬の開発を目指している。

図2：腫瘍血管由来因子による転移促進



このように腫瘍血管内皮の特異性を解明することは、腫瘍血管新生の状態をモニタリングすることを可能とし、個別に薬剤や患者の選択をしたうえでの治療戦略構築につながるものと考えられる。

腫瘍血管内皮細胞に特異的に発現している分子は抗がん剤の新規の標的分子、また診断のマーカーとして非常に期待される。特に現在皆無の肉腫のマーカーとしてその治療・診断に重要と考える。現在、北海道大学病院との共同研究でヒトがん組織中の腫瘍血管内皮マーカーの病理学的解析を進めている。

奨励賞受賞のご挨拶

山口大学共同獣医学部 生化学教室 島田 緑

この度は日本女性科学者の会奨励賞という名誉ある賞を賜りましたことに、改めましてお礼申し上げます。このような賞をいただいたことは、これまで私を指導して下さった先生や応援して下さいました先生、日々、切磋琢磨し合った研究室のメンバーのお陰です。誠にありがとうございました。

女性研究者として歩んできた道は、時に苦しく先が見えなくなるときもありました。そのような時に、様々な形で私と接して下さった方々の温かい言葉やサポートが、大きな力となり新たな方向性を見出すことが出来ました。日本女性研究者の会に出席し、経験豊富な多くの女性研究者の皆様方と知り合うことができ、また皆様のご経験を拝聴することができ、「私はまだまだ努力が足りない」と圧倒されました。

現在、政府は女性が活躍できる社会づくりをめざしています。私が本年4月から着任した山口大学共同獣医学部にも半数近くの学生は女性です。女子学生の増加に対応して、出産後も継続して働き、社会に貢献できるように、育児と研究・教育の両立における自身の経験を踏まえ、教育ならびに研究者育成にも力を入れたいと思います。これまで私が受けた恩恵を、次の世代を担う若い人たちに伝えること、そして未来へ繋げることが私の今後の抱負です。

奨励賞授賞式典では、素敵な盾を頂きました。まだセットアップ中の研究室に飾らせていただいた盾を見るたびに、この賞に恥じない研究と教育により一層努力しなければいけないという気持ちがこみ上げてきます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、日本女性科学者の会会員の皆様のご健康とご活躍、また貴会のさらなる発展をお祈りいたします。

奨励賞受賞に寄せて

北海道大学遺伝子病制御研究所 血管生物学研究室 樋田 京子

このたび、第22回日本女性科学者の会奨励賞を賜りまして誠にありがとうございました。栄誉ある賞を頂き大変光栄に思います。選考に関わりました諸先生方に心よりお礼申し上げます。これを機会にさらに精進するようにと激励を頂いたと思いますので、さらに身を引き締めて研究・教育に励んで参ります。

私は歯学部を卒業後8年間口腔外科の臨床に従事しました。その間大学院で口腔癌の研究を行いましたが、受賞の血管研究を始めることになったきっかけは今から16年前のアメリカ留学でした。実家のサポートもある環境ですら、双子育児と仕事の両立は大変で周囲にも渡米を随分反対されましたが、留学を決めた夫に1才になったばかりの双子を連れて同行しました。夫と同じラボでポスドクとして働き、そこで腫瘍血管新生の研究に出会い、4年後に帰国後も継続して研究してきました。これまでの17年間、私の研究は子育てと共に進めてきたことにもなります。アメリカで子育ても研究もたくましく、柔軟にこなす女性たちやそのパートナー・同僚達に出会ったことは自分にとって大きな励ましになりました。しかし、帰国後も子育て中の自分を温かくサポートし、いつも背中を押して下さいました恩師の先生方、ラボメンバー達、両方の実家の協力や夫や子供達の理解と支援がなければとてもここまで続けられなかったことと思います。今回の受賞も周囲の皆がとても喜んでくれ、あらためて人の縁に恵まれていたことに感謝の意を新たにしました。子供達が小さかった頃悩む私に「時にペースが落ちてでも必ず続けること、やめたらゼロになってしまうから」と女性の先輩から励まして頂き救われたことがありました。先日初めて日本女性科学者の会に出席した際にも、諸先輩方の明るくたくましく、それでいて包み込むような温かさに触れ大いにエネルギーを頂くことができました。私も、今後は諸先輩方が切り開いた道を後輩達が明るい表情で歩いていけるよう励まし、その環境作りに貢献していければと思っております。そのためにも自分自身が研究者、教育者として成長し続けられるよう精一杯努力するつもりです。今後とも御指導を賜りますよう何卒よろしく願いいたします。

最後になりましたが、日本女性科学者の会のますますの発展を祈念いたします。

第22回功労賞を受賞して

公益社団法人科学技術国際交流センター管理部長、一般社団法人日本女性科学者の会顧問 丸岡 賢

この度は、栄誉ある賞を賜り、ありがとうございました。この紙面を借りまして受賞の御礼を申し上げます。

早いもので、皆様とお会いしてから4年、一般社団法人の設立から3年が経ちました。法人格を取得したことで、一つの目標は達成したものの、規程等の整備が追いつかない状況下での出発でしたが、役員の皆様の努力が結実し、今は組織の制度設計や法人運営も軌道に乗った感があります。財務の改善等の課題はありますが、当初の目標であった公益法人に移行される場合には、また、お手伝いをさせて頂きたいと思っております。その日まで元気でいられたら話ですが。

結びに、私の近況をご報告させていただきます。

長年、国民の税金で生活させていただいたので、定年後は地域貢献や社会への恩返しをと考えてきました。

現在、民生委員や自治会の仕事を行う傍ら、貴会の定款作成や設立登記などを行うことにより習得したノウハウを生かして、公益社団法人で法人運営全般の仕事をしております。

一般社団法人 日本女性科学者の会の益々の発展と、会員皆様のご活躍を祈念します。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

V. 第23回(2018年度)『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

『日本女性科学者の会奨励賞』 募 集 要 項

対象者：広く理系の分野において研究業績をあげ、その将来性を期待できる方で、かつ本会の趣旨に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職(教授、部長等)にある方はご遠慮下さい。自薦・他薦は問いません。
※応募と同時に入会申し込みも受け付けます。

奨励賞：表彰楯および副賞20万円(年1~3件)、
本会総会(例年5月)において贈呈。

応募書類：①本会所定の書式(本会ホームページ<http://www.sjws.jp/> からダウンロードして下さい)
②論文リスト(各論文の最新のインパクトファクターを記載して下さい)
③関連する主要論文3編のPDF(5年以内のもの)

応募方法：Eメールにて提出(①に署名した用紙はPDF化して送付して下さい)。全ての添付ファイル名に、応募者の氏名を必ず入れて下さい。できるだけ、ひとつのフォルダー(応募者氏名をフォルダー名にして下さい)に入れて圧縮(zip形式)してお送り下さい。

応募期間：2017年11月1日(水)~11月20日(月) 必着

提出先：日本女性科学者の会 賞担当/近藤 科江 理事宛 E-mail: award@sjws.info
件名を「日本女性科学者の会奨励賞応募」として送信して下さい。

決定時期：2018年3月末頃(メールにて本人宛通知)

開催報告：INWES-APNN/GWST

JNWES 担当理事 近藤 科江（東京工業大学生命理工学院）

INWES-APNN2017は、世界女性技術者科学者ネットワーク（INWES）のアジア地域部会（APNN）の議長国を2015年から2017年の3年間務めた日本（JNWES：日本女性技術者科学者ネットワーク）が、最後の締めくくりとして、自国で開催した国際会議である。7月14日（金）10時から、横浜シンポジウム（横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル9階）にて開催された。海外12か国からの34名を含め70名以上が参加した。JNWES 理事長菅原香代子氏、INWES 会長Kong-Joo Lee教授、内閣府男女共同参画局長武川恵子氏の挨拶に続き、参加12か国の代表が自国報告を行った。日本からの報告は、功刀会長が発表された。その後のWelcome Partyでも活発な意見交換があり、盛会に終わった。



INWES-APNN 会議
自国報告 功刀会長

APNN国際会議の開催国が、自国の主要課題を取り上げたイベントGWSTをAPNN国際会議の翌日に開催することになっており、日本は「世界で輝け、理系女子！あなたの夢が世界を変える」というテーマを掲げ、STEM分野の女性科学者技術者が少ない現状を皆で考える取り組みを、15日（土）に行った。事前登録420名、当日参加者500名弱であった。10時からの開会式では、GWST議長を務めた近藤の挨拶に続き、用務で参加ができなくなった横浜市長 林文子氏の「理系女子を増やす取り組みを横浜市も推進する」というメッセージが副市長の渡辺巧教氏によって代読された。東京薬科大学の笹津備規学長からは、薬学の歴史を踏まえた挨拶があり、それに続き、協賛企業を代表してIBM技術理事の行木陽子氏、富士通事業本部長の中条薫氏から、いずれもAIに関する最先端の研究を紹介する講演があった。それに続いて、メイン会場では、「研究するって面白い！科学者になった11人の物語（岩波書店）」という本を書いた、大学に所属する女性研究者によるトークショーと、参加者と一緒に語るテーブルミーティングが行われた。その後、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙機構・機構長、村山斉先生による「女性がいないと進まない研究最前線」と題する宇宙研究の最先端で活躍する女性研究者を紹介しながら、理系研究の面白さを伝える特別講演が開催された。続いて、横浜サイエンスフロンティア高校の高校生がAPNN各国代表者に、「理系科学者として将来活躍するうえで、不安に思っていること、知りたいこと」を英語で質問するイベントが行われ、6



GWST 開会式
近藤理事

か国の代表が、一人一人の質問に熱心に答えてくれた。国際パネルディスカッション「APNN代表と考えるワークライフバランス」でも、現役の科学者・技術者が活発な意見交換を行った。他の会場では、SJWS例会「リケジョの未来を拓く」トークリレー、日本女性技術者フォーラムの「なんでも相談室」、日本女性技術士の会による「理系の仕事を知ろう」という主催団体によるイベントが開催された。また、今回の目玉として、学生リケジョサークルが企画したイベントが2つ開催された。東工大テクノガールズが企画した「トークショー リケジョの素顔」では、彼女たちが自ら探して登壇を依頼した女性科学者・技術者に、学生の間で囁かれる噂の真相を探るべく、色々と質問するというイベントを行った。浜田理事も登壇して、学生の質問に答えた。もう一つの「凜」「リケチェン！」が企画したイベントでは、「集まれ、理系女子」と題して、主に高校生を対象に、学生生活への疑問や不安に直接答えたり、香水を作ったり、ドラマの中の理系を解説したり、理系を身近に感じてもらえるようなイベントを企画した。また、協賛企業から、若手の研究者に実際の職場の様子をお話してもらい、学生に理系職業を理解してもらおう取り組みも行われた。メイン会場およびレセプションスペースでは、19企業と17大学・研究機関等のブースが配置され、終日多くの学生・女性科学者で混雑していた。企業の方からは、「意見交換の良い場になった。一緒にリケジョを増やすために何をしたら良いか考えていきたい」、学生からは「将来の進路選択にとっても役立った」など、様々な声を頂き、2年以上前から準備してきたメンバーは感無量だった。懇親会は、中山理事の司会で進められ、更に深い交流の時間となった。

APNNの各国代表に聞いてみよう



企業ではどんな仕事が行っているの？



水を作ったり、ドラマの中の理系を解説したり、理系を身近に感じてもらえるようなイベントを企画した。また、協賛企業から、若手の研究者に実際の職場の様子をお話してもらい、学生に理系職業を理解してもらおう取り組みも行われた。メイン会場およびレセプションスペースでは、19企業と17大学・研究機関等のブースが配置され、終日多くの学生・女性科学者で混雑して



トークショー
浜田理事

いた。企業の方からは、「意見交換の良い場になった。一緒にリケジョを増やすために何をしたら良いか考えていきたい」、学生からは「将来の進路選択にとっても役立った」など、様々な声を頂き、2年以上前から準備してきたメンバーは感無量だった。懇親会は、中山理事の司会で進められ、更に深い交流の時間となった。

2017年度SJWS例会報告

関東ブロック長 中山 榮子 (昭和女子大学)

本年度のSJWS例会は、7月15日に横浜シンポジアにて開催されたGWST(Global Women in Science and Technology)内で開催した。今年度は関東ブロックが担当させていただいた。なお、全体のコーディネータを中山と野呂知加子理事(日本大学)が務めた。



1. GWST内にブースを設置させていただきSJWSの紹介と研究例として漢方薬の世界「身近な植物からこんな薬が」を慶応大学医学部の大倉先生のグループのご協力を得て、展示した。(写真右)

2. 午後からはGWST内の一室で、「リケジョの未来を拓く」と題して、リレートークを行った。

参加者には「日本女性科学者の会SJWSロールモデル集(写真右)」を配布した。このイベントに合わせて主に理事のメンバー12名が女子高校生や女子大学生に向けて、仕事の内容とやりがい・進路決定のきっかけ・仕事と家庭のバランス・進路選択に対してのメッセージの4つのトピックスについてコメントをまとめたものである。



リレートークでは、様々な分野で活躍中の女性科学者の方々をお招きし、女子高校生や女子大学生に向けて①ご研究の内容とその面白さ、②職業としての女性科学者について、③女子高校生大学生へのメッセージ等について話していただいた。

＜リレートーク・プログラム＞

- ・武井史恵理事 (防衛医科大学学校化学教室) 准教授
「科学者ってどんな人～誰でも目指せる科学者～」
- ・小柴和子氏 (東洋大学生命科学部) 教授
「出会いが道を拓く」
- ・高瀬恵子氏 (NTT物性科学基礎研究所)研究主任
「電子が魅せる不思議な世界 & 基礎研究者の日常紹介」
- ・荒木陽子氏 (アビ株式会社) 研究所統括
「リケジョって楽しい！～すべての経験は活かされる～」



小柴 和子氏
(東洋大学)



高瀬 恵子氏
(NTT 物性科学
基礎研究所)



荒木 陽子氏
(アビ株式会社)



出野 智史氏
(慶応大学)

＜先生方を囲んで茶話会＞

- ・出野智史氏 (慶応大学医学部) 医師
「臨床医が取り組む東洋医学の研究」
- ・岩倉いずみ氏 (神奈川大学工学部) 准教授
「反応に伴い化学結合が解離・生成する様子をみたいと思いませんか？」
- ・安川雪子理事 (千葉工業大学工学部) 准教授
「磁石と磁性材料の話」



岩倉 いずみ氏
(神奈川大学)

右側の写真は各先生方のご講演いただいている様子である。今回はGWST内でのイベントであったため出入りがあったが、延べで80名近くの参加があった。大変稔りの多い例会であったといえよう。ご協力いただいた関係各位に感謝する。

【第4回定時会員総会報告】

日 時：2017年5月28日(日) 11：00～12：00

場 所：学士会館(東京一ツ橋)203号室

議 長：永澤秀子 理事

出席会員数(委任状を含む) 156名で総会成立

【第1号議案】2016年度会務ならびに事業報告：(石川理事)承認

【第2号議案】2017年度会務ならびに事業計画案：(石川理事)承認

【第3号議案】2016年度収支決算と監査報告：(安川理事)承認

【第4号議案】2017年度予算案：(安川理事)承認

【第5号議案】新理事承認と紹介：承認

※理事承認後、総会を一時中断し第1回理事会を開催し新会長を選任

【報告事項】

- ・新会長紹介と挨拶：功刀 由紀子会長
- ・HP会員サイトでの会員名簿公開について(永澤理事)
- ・定款に基づく規則類の一部変更について(浜田理事)

【SJWS 2016年度会務ならびに事業報告】

1. SJWS主要会議の開催状況

【総 会】

2016年5月22日(日) 学士会館203号室 10：00～11：00

出席会員数：151名(委任状含む)、議決権のある会員総数：291名 会員総会運営規則第7条により成立

- ①会長挨拶
- ②2015年度会務ならびに事業報告
- ③2016年度事業計画
- ④2015年度収支決算と監査報告
- ⑤2016年度予算案
- ⑥ブロック活動報告(ブロック長)

【理事会】

- ①2016年5月22日(日) 第1回通常理事会(第14回) 学士会館 理事出席数16(理事総数19)監事2(監事総数2) 成立
主要議題：次年度総会開催日 2017年5月28日(日)
- ②2016年6月19日(日)第2回通常理事会(第15回)
愛知大学東京霞が関オフィス
理事出席数12 監事2 成立
主要議題：SJWS理事会・行事年間スケジュール、佐世保市少年科学館への共催、女子中高生夏の学校2016、APNN(Asia & Pacific Nations Network) 2017、総会における委任状の取り扱い方法
- ③2016年12月11日(日)第3回通常理事会(第16回)
オフィス東京
理事出席数16 監事1 成立
主要議題：2016年度理事選挙管理委員会の設置、奨励賞応募状況、APNN/GWST(Global Women in Science/Technology)
- ④2017年3月12日(日)第4回通常理事会(第17回)
愛知大学東京霞が関オフィス
理事出席数14 監事1 成立
主要議題：奨励賞受賞者の決定、功労賞の選考について、APNN/GWST
- ⑤2017年4月23日(日)第5回通常理事会(第18回)
愛知大学東京霞が関オフィス
理事出席数12 監事2 成立
主要議題：総会の議案、年度報告、年度計画、例会、

SJWS60周年記念事業

※議事録はホームページの会員専用ページに掲載されています。

2. 出版活動

ニュースの発行：2016年9月119号、2017年3月120号

日本女性科学者の会学術誌(電子版)の刊行 2017年3月31日 第17巻発行

3. 奨励賞・功労賞の贈呈

①第21回2016年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会、懇親会

2016年5月22日(日)学士会館203号室 13：00～17：00

- ・奨励賞受賞者：大神田 淳子、金 玫秀
- ・功労賞受賞者：赤松 良子、角谷 治子、北川 慶子

②第22回2017年度奨励賞・功労賞の選考

奨励賞応募者：24名

・奨励賞受賞者

島田 緑：名古屋市立大学医学部 講師(応募時)博士(理学)

樋田 京子：北海道大学遺伝子病制御研究所 特任准教授 博士(歯学)

・功労賞受賞者

丸岡 賢：公益社団法人 科学技術国際交流センター 管理部長

4. SJWS主催事業

第11回日本女性科学者の会学術大会並びに新春シンポジウム

日時：2017年1月7日(土)

大阪科学技術センター 小ホール 13：00～19：00

担当：SJWS関西ブロック(功刀、懸橋)

実行委員長：功刀会長(ブロック長)

参加者：23名(学生5名)、

参加費：無料/懇親会費：5000円、2000円(学生)

大会テーマ「自分の可能性を信じ、新たな挑戦を！」

【学術大会】セッション1 13：00～15：00

開会挨拶：功刀会長

一般講演：6題

座長：懸橋理事、近藤理事、功刀会長

【新春シンポジウム】セッション2 15：20～16：40

特別講演2題

座長：藤井 紀子会員(京大原子炉実験所)

【懇親会】17：00～19：00

大阪科学技術センター7階 レストラン

5. SJWS共催事業

①文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

日時：2016年6月13日(月) 15：00～17：00

岐阜薬科大学 第一講義室

シンポジウム：「ライフイベントを乗り越えて一女性研究者が研究を続ける環境とは」

開会挨拶：稲垣 隆司(岐阜薬科大学学長)

基調講演1：「女性の活躍推進の加速化について」

小林 洋子(厚生労働省 雇用均等政策課長)

基調講演2：「キャリア形成における多様な視点」

功刀会長

パネルディスカッション 16：45～17：30

テーマ：「本音で語ろう！」

「私たちが目指すワークライフバランス」

モデレーター：永澤 理事

②内閣府と共催「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」

日時：2016年12月3日(日) 高山市高山文化センター
13:00~17:00

テーマ：「自然と科学が拓く地域の未来、あなたの未来」
総合司会：永澤理事

【第1部】講演会：講師4名

白子 順子(高山赤十字病院 第一内科部長)、岡田 賛三(飛騨産業㈱代表取締役社長)、荒木 陽子(アビ㈱長良川リサーチセンター製品開発顧問)、木村 了(NPO女性技術者の会 理事長)

【第2部】パネル討論会

テーマ

「社会で役立つ理系の勉強 未来の仕事を見つけよう」

パネリスト：

原山 美智子(岐阜大学工学部准教授)、藤田 昌子(岐阜女子大学家政学部教授)、小倉 ふじの(高山市役所基盤整備部)、板津 純子(高山市立中山中学校教諭)、白子 順子、岡田 賛三、荒木 陽子、木村 了(【第1部】講演会 講師)

③平成28年度 夏休み子ども科学教室への共催(中国・四国・九州・沖縄ブロック)

日時：2016年8月13日(土) 佐世保市少年科学館

参加者 小学生24名

テーマ：「抗菌アロマジェルを作ってみよう」

小川理事、福原理事

6. SJWS参画事業

①女子中高校生夏の学校2016への参加

日時：2016年8月6日~8日(土~月) 国立女性教育会館

テーマ：「科学・技術・人との出会い」

理科実験・実習「あなたも挑戦しませんか?宇宙の恵みを知ること、使いこなすこと」

理科実験は荒谷 美智会員、宮本理事、石川理事が担当、ポスターキャリア相談は大倉監事、野呂理事が担当

②第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加

日時：2016年10月8日(土) お茶ノ水女子大学

テーマ：「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか?」

分科会2「女性のための賞の創設~その意義を考える~」

講演：日本女性科学者の会奨励賞について 功刀会長

全体シンポジウム：日本と世界の研究者・技術者

-これまでの支援と女性比率-

講演：韓国の状況 野呂理事、懇親会司会：浜田理事

③第14回男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートへの参加

アンケート実施期間：2016年10月8日(土)~11月7日(月)

SJWS回答数 80名(全回答数 18,159名)

④クオータ制を推進する会(Qの会)への参加

「政治分野における男女共同参画推進法案」の成立に向けての活動

NWECワークショップ開催(8月26日)、院内集会(6月2日、10月7日、12月10日)、

勉強会(9月27日)、ニュースレターの発行(11号、12号、13号)、ロビイングの実施

大倉監事、浜田理事

⑤国際婦人連絡会への参加

常任委員会12回、環境委員会11回開催

主催セミナー 2017年12月9日(金) 婦選会館(代々木)

「福島第一原発事故の海域環境、魚介類、漁業への影響と、その後2016」

原猛也氏((公財)海洋生物環境研究所)

世話人：大倉監事

常任委員・環境委員会座長：宮本理事

⑥JNWES (Japan Network of Women Engineers and Scientists) への参加

INWES(International Network of Women Engineers and Scientists)-APNN/GWST(2017年7月14日、15日)開催に向けての様々な準備活動を行った。

JNWES理事会とINWES-APNN/GWSTの準備会に参加、企業や大学を訪問して協賛・後援の募集勧誘活動を行った。大倉監事、近藤理事

永澤理事、小川理事が企業への協賛募集に協力、浜田理事が後援大学との連絡役として参加した。

2つの女子学生企画準備、イベントでのチラシ配布

【2017年度事業計画】

1. SJWS主要会議の開催予定
 - ・定期総会：2017年5月28日(日) 学士会館 203号室
 - ・理事会：5回
2. 出版活動
 - ・日本女性科学者の会ニュース(121・122号)の発行
 - ・日本女性科学者の会学術誌 第18号(電子版)の刊行
3. 奨励賞・功労賞の贈呈
 - ・第22回2017年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会、懇親会
 - 日時：2017年5月28日(日) 学士会館 203号室
 - ・第23回2018年度「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と選考ならびに「日本女性科学者の会功労賞」の選考
4. SJWS主催事業：
 - ・INWES-APNN/GWST
 - 日時：2017年7月14日~15日(金~土) 横浜シンポジア
 - ・例会：2017年7月15日(土)横浜シンポジアにてGWST内で開催
5. SJWS設立60周年記念事業実行委員会の立ち上げ
6. SJWS参画事業への参加：
 - ・女子中高校生夏の学校2017
 - ・JNWES活動
 - ・第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
 - ・国際婦人年
 - ・クオータ制を推進する会(Qの会)
7. 外部団体事業への後援

編集：玉井 幸恵・山口 陽子・小川 美香子
小杉尚子・四谷理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©
事務局：〒453-8777

名古屋市中村区平池町4丁目60-6

愛知大学名古屋一般教育研究室内

TEL: 052-564-6151 FAX: 052-564-6251

E-mail: sjws-office@sjws.info

Ⅷ. 第22回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプション風景

